

池田市埋蔵文化財発掘調査概報Ⅱ

1995年度

1996年3月

池田市教育委員会

序 文

池田市は大阪府の北西部に位置し、五月山の緑、猪名川の水の流れに囲まれています。このような自然の豊かな環境の中、人々が先史の時代から営み始めています。

近年はこの地も、陸・空の交通の要衝として、また、大阪のベットタウンとして開発が進み、大きく発展してまいりました。

しかしながら、このような開発、発展とは裏腹に、我々の祖先が伝え残してきた文化遺産や自然が破壊され、かっての面影がしのぶことができないほど様がわりしてしまったことも事実です。祖先から受け継がれてきた文化遺産を現代生活に反映しつつ、また、後世に伝えて行くことが我々の義務だと考えております。

この報告書は、平成7年1月17日に発生した兵庫県南部地震に伴う復旧工事について、国並びに大阪府の補助を受けて実施した発掘調査の概要報告であります。本書が文化財の理解に通じれば幸いと存じます。

なお、調査の実施にあたっては多くの御指示、御助言をいただいた諸先生並びに関係機関をはじめ、土地所有者、近隣住民の方々には文化財保護に対して格別の御理解と御協力をいただきました。心より感謝と敬意を表し、厚く御礼申し上げます。

平成8年3月

池田市教育委員会

教育長 長江 雄之介

例　　言

1. 本書は、池田市教育委員会が平成7年度国庫補助事業（総額1,000,000円、国庫50%、府費25%、として実施した埋蔵文化財緊急発掘調査の概要報告書である。
2. 本年度の調査および期間は下記のとおりである。

池田城跡第31次	池田市上池田1-3347	平成7年7月7日～7月18日
池田城跡第32次	池田市建石町3326-5	平成7年7月24日～8月11日
池田城跡第33次	池田市建石町3263-1	平成8年1月8日～1月12日
3. 調査は、池田市教育委員会生涯社会教育課文化財係が実施し、中西正和が現地を担当した。
4. 本書の執筆・編集は中西が行なった。また、本書の製図、遺物実測にあたっては辻美穂、上谷浩司の協力を得た。
5. 本書で使用する土層の色調は、「新版標準土色帖」（農林水産技術会議事務局監修、財團法人日本色彩研究所 色票監修）による。
6. 調査の進行にあたっては、施主並びに近隣住民の方々に深甚なるご理解、ご協力をいただいたことに対し、深く感謝の意を表する次第であります。

目　　次

池田城跡発掘調査

1.はじめに	1
2.池田城跡第32次発掘調査	2
3.池田城跡第33次発掘調査	3
4.池田城跡第34次発掘調査	4

池田城跡発掘調査

1. はじめに

池田市の城山町、建石町一帯に広がる池田城は、戦国期を中心とする国人池田氏の居城である。池田城跡は五月山塊から張り出した標高50mを測る台地の西縁辺に立地し、その場所からは、眼下に旧池田村を望むことができる。また、丹波山地から大阪湾に流れ込む猪名川、大阪と能勢地方を結ぶ街道を一望することもでき、そのことから、池田城は当時の交通の要衝に選ばれていたことが判る。池田城を居城とした国人池田氏の出自についての詳細は明らかではないが、14世紀中頃の文献からその名が散見されるようになる。しかし、当時の池田氏の動向は不明な点が多い。15世紀後半頃以降、摂津守護細川氏の被官として、幾度かの落城を経験しながらも、莊園經營や高利貸經營により勢力を伸ばし、摂津の国人の中でも有力な地位を得るようになった。しかし、永禄11年（1568）織田信長による摂津入国に際し、降伏を余儀なくされ、信長の支配下となる。その後、元家臣であった荒木村重によって城を奪われ、そして、池田城は村重の有岡城入城に伴い、政治・経済支配の拠点としての役割を終えることとなった。池田城跡の主郭部は、現在でも土塁と空堀が良好に残り、当時の面影を少しは窺わせるが、城



第1図 調査地周辺図

全体の構造について不明な点が多く残っていた。昭和43、44年に主郭部の一部が発掘調査がなされ、建物跡に伴う礎石、石組の溝、中世城郭では珍しい枯山水の庭園跡、落城に伴う焼土層等が検出された。また、平成元年～4年に実施された主郭部の発掘調査では、排水のための暗渠を埋設する虎口、礎石や一部瓦を伴う建物跡、石組の溝、小規模な石垣、主郭内に設けられた内堀、倉庫と考えられる列建物跡等が検出された。一方、大阪府教育委員会や池田市教育委員会による主郭周辺の発掘調査では、主郭部の南方約100mの位置で大手口が存在することや空堀が幾重にも巡らされていることが判明しており、少しづつであるが城の全容が解明しつつある。また、池田城以前の時代についても明らかになりつつあり、昭和60年以降の大坂府教育委員会による調査では縄文時代晚期の土器、弥生時代後期の竪穴式住居跡、古墳時代中期の土坑、奈良時代の木棺墓が検出されおり、また、平成3年度の池田市教育委員会による発掘調査では、庄内期のベット状遺構を伴う竪穴式住居跡が検出されている。

参考文献

- 『池田城跡－主郭の調査－』池田市教育委員会 1994年
今西 明『國人の台頭』『大阪府史』第4巻 中世編 1981年

2. 池田城跡第32次発掘調査

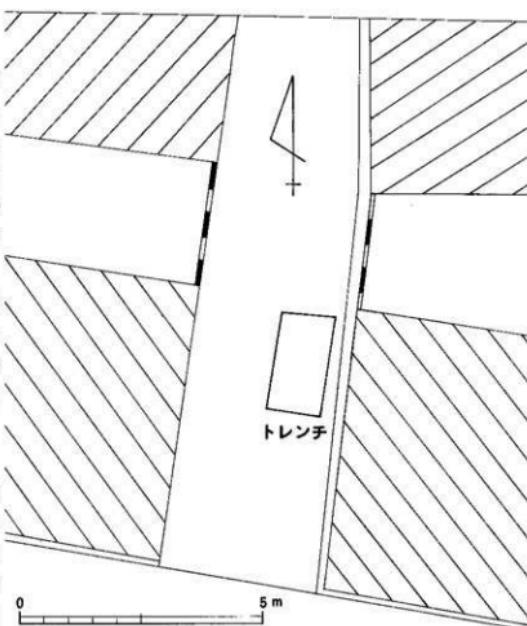
調査の概要

発掘調査は池田市上池田1-3347において、災害復旧に伴う個人住宅建築工事に先立ち実施した。調査地は池田城跡の東端に位置しており、また、南側には能勢街道が隣接している。調査面積は8m²である。

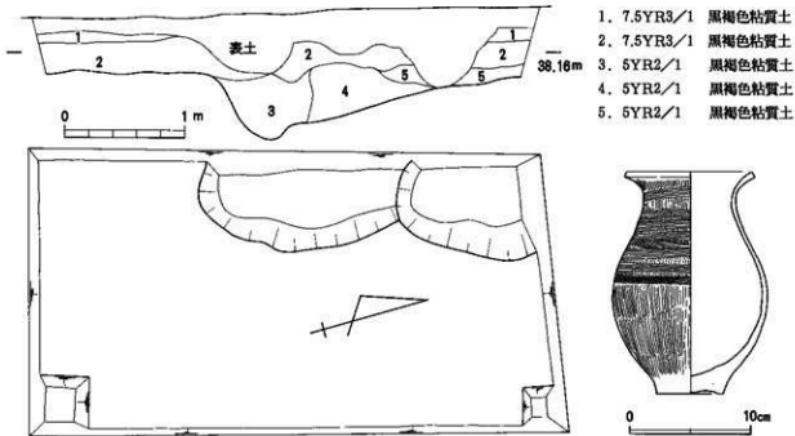
層序は、基本層位は第1層は表土、第2層は弥生土器を含む黒褐色の粘質土、第3層は砂礫を多く含む黒褐色粘質土の地山である。

検出遺構

調査区西側から土坑2基を検出したが、それぞれ調査区外に伸びているため正確な大きさは不明である。また、出土遺物がないため、時期・性格等も不明である。



第2図 トレンチ位置図



第3図 トレンチ平・断面図



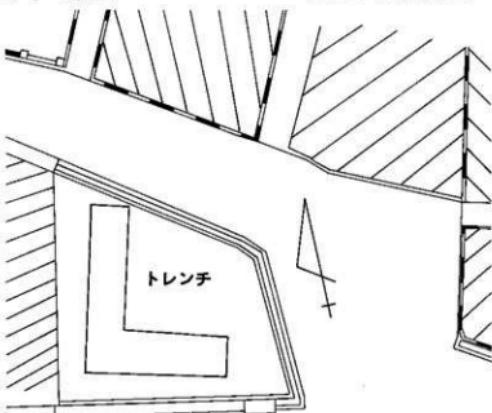
第4図 遺物実測図

出土遺物
今回の調査で出土した遺物は第2層から出土したもので、1は元の形がわかる唯一のものである。高さ185mm、口径108mmで、赤褐色の胎土である。外面は縦方向のヘラで調整がされており、外面上部は直線文が見られ、中央に1条の波状文が施されている。外面下部は縦方向のヘラの上からナデが施されている。内部はナデである。この土器は、弥生時代中期のものと考えられるが、池田城跡からの中期の土器の出土は初めてで、注目される。その他に弥生土器と考えられる土器が出土しているが、図化できるものはなかった。

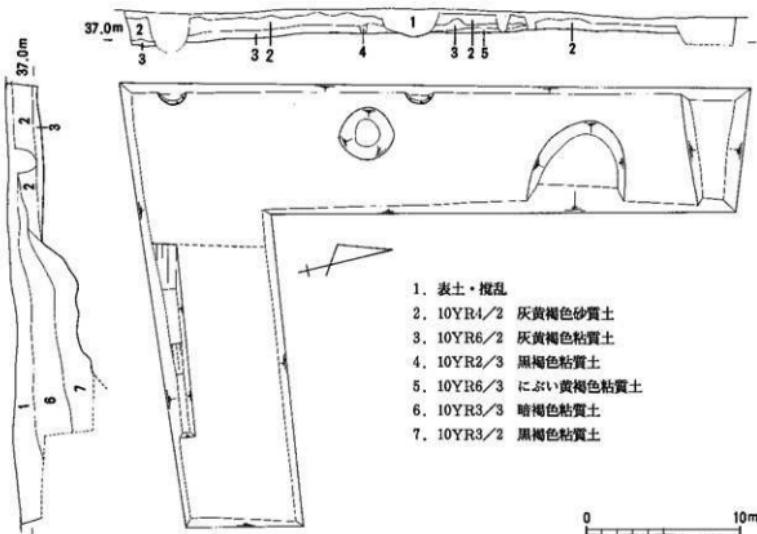
3. 池田城跡第33次発掘調査

調査の概要

発掘調査は池田市建石町3326-5



第5図 トレンチ位置



第6図 トレンチ平・断面図

において、災害復旧に伴う個人住宅建築工事に先立ち実施した。調査地は池田城跡の南側に位置しており、また、能勢街道に隣接する場所である。現在では、調査地の東で北と南に道路が二股にわかれ走っているが、もともとは、南には道路が走らず、北に屈曲して走っており、また、東側は堀と考えられる溝が南北に走っていたことが、わかっている。その堀が池田城の外堀と考えられる。調査はそのことを主眼に置き実施した。調査面積は8m²である。

基本層序は4層からなる。第1層は表土、第2層は灰黄褐色砂質土、第3層は堅く締められた灰黄褐色の整地土で、第4層はにぶい黄褐色の地山である。

検出遺構

検出した遺構は堀である。

堀は調査区東側から検出したもので、工事の関係上完掘はできず、小規模な側溝によって可能な限り掘削した。堀は一部しか検出していないため、幅・深さ等は不明である。堀の西側は整地層が広がるが、そこからは柱穴等の遺構はなく、堅く締められていることからも、道路に伴う整地と考えられる。堀からは近代の遺物が出土したが、底まで掘削していないため堀の時代が分かれる資料は見つからなかった。

4. 池田城跡第34次発掘調査

調査の概要

発掘調査は池田市建石町1978-8において、災害復旧に伴う寺の庫裡建築工事に先立ち実施

した。調査地は池田城跡の南西端側に位置しており、また、平野との落差が8mを図り、池田城が位置する台地の縁辺部にある。事前の試掘の結果、調査地南側から柱穴が認められたため、調査地南側にトレンチを2カ所設定し、池田城の防衛に関する遺構の確認を主眼に置き、調査を実施した。調査面積は20m²である。

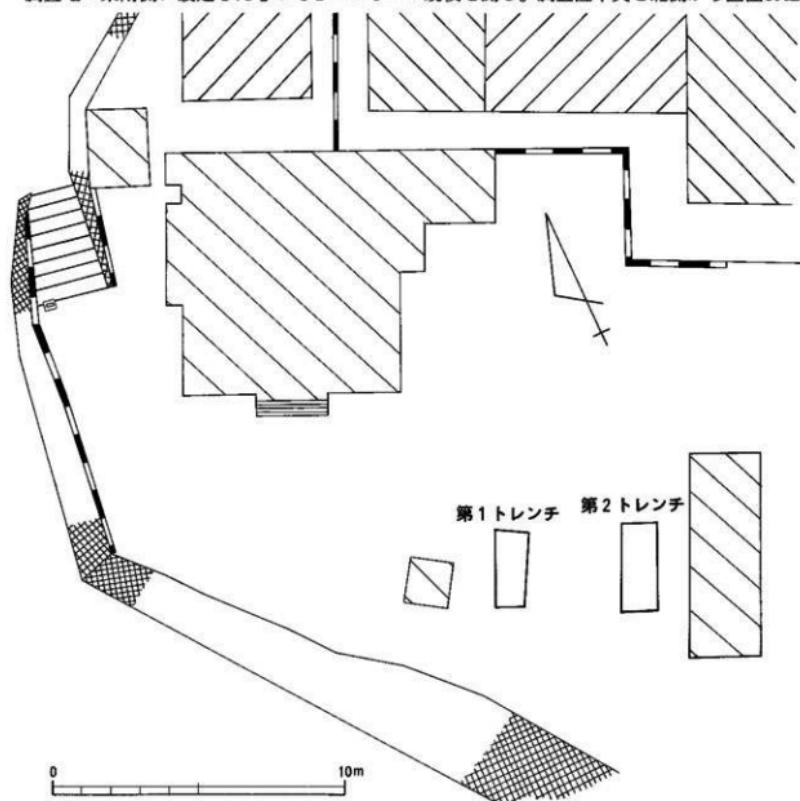
基本層序は2層からなる。第1層は表土、第2層は灰褐色粘質土の地山である。

第1トレンチ

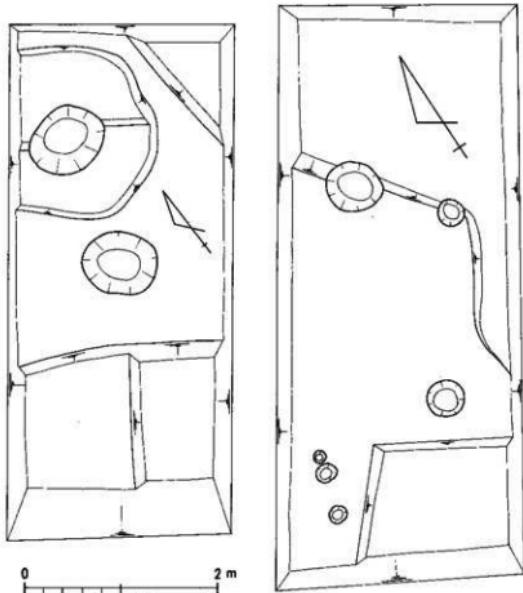
調査地の南中央側に設定したもので2m×5mの規模を測る。調査区からは柱穴及び杭跡を検出した。その他の遺構はトレンチ内に攪乱が多いため認められなかった。

第2トレンチ

調査地の東南側に設定したもので2m×5mの規模を測る。調査区中央と北側から直径80cm



第7図 トレンチ位置図



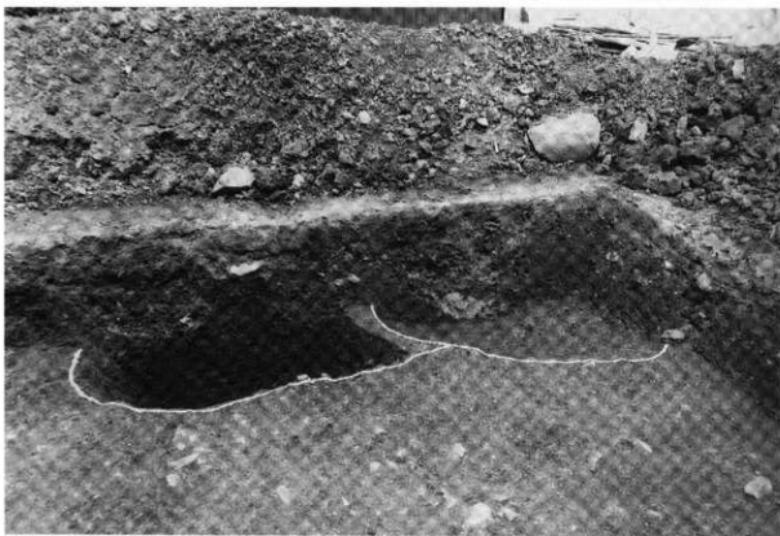
第8図 第1トレンチ・第2トレンチ平面図

のピット2基を検出した。第1トレンチ同様、その他の遺構はトレンチ内に擾乱が多いため認められなかった。

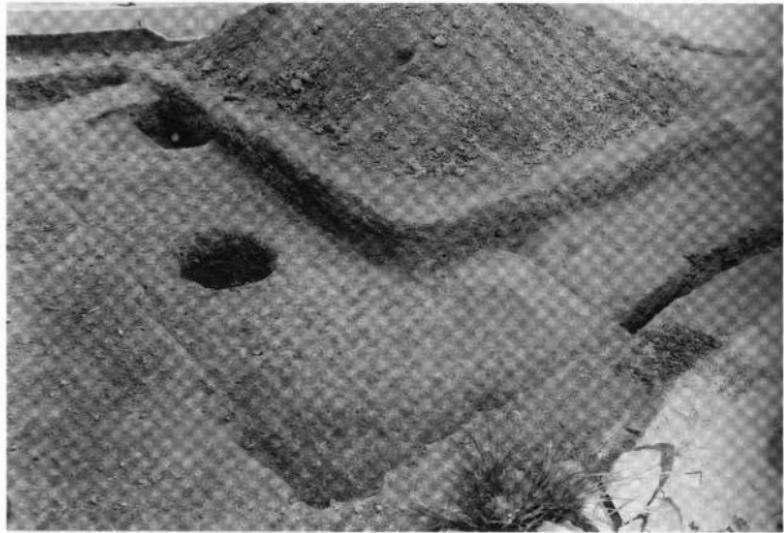
第1トレンチ、第2トレンチから検出した柱穴等は、調査地が縁辺部に位置することから、柵列等の池田城の防衛遺構に伴うものである可能性もあるが、第1トレンチ、第2トレンチとも遺構保存状況が悪く、柵列及び建物跡には復元には至らなかった。また、出土遺物についても図化できるものはなかった。



(1) トレンチ全景（南から）



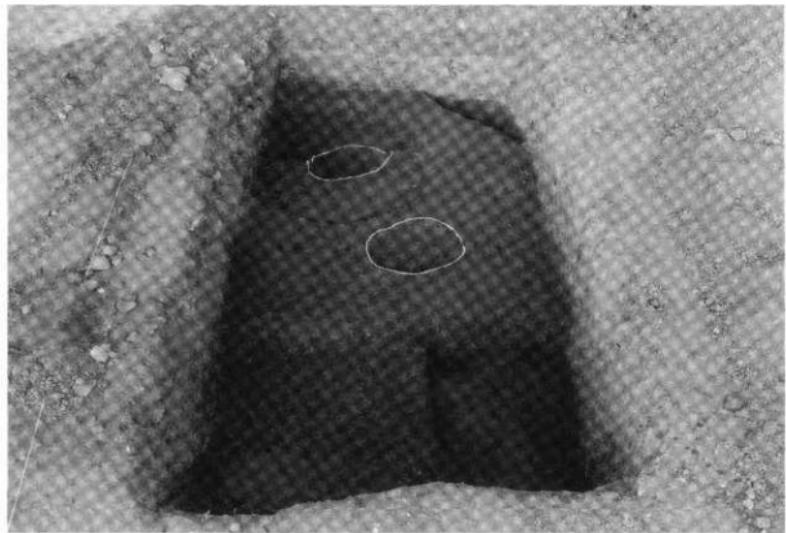
(2) トレンチ北西（南東から）



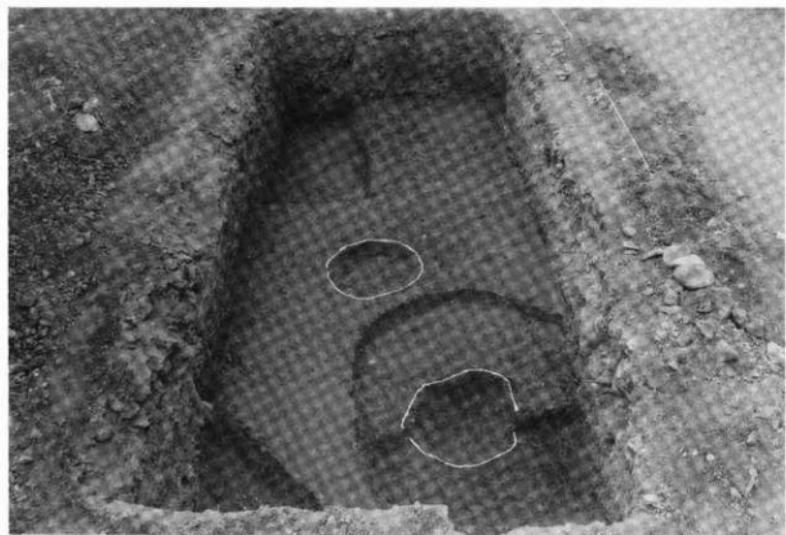
(1) トレンチ全景（西南から）



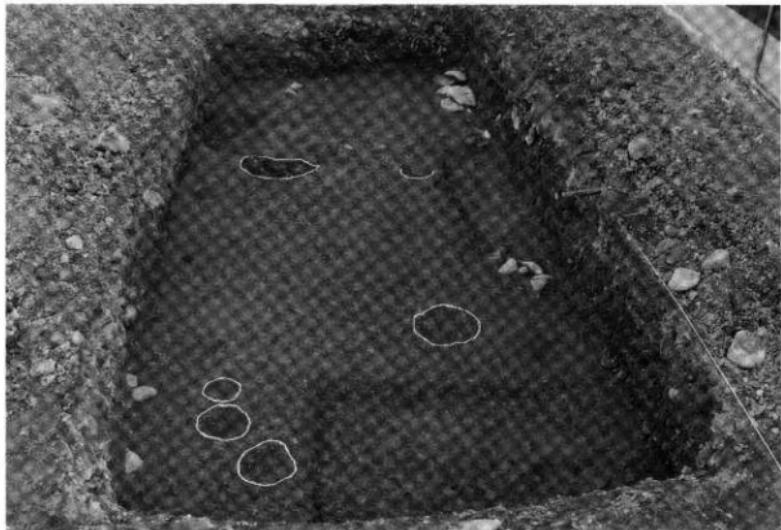
(2) 堀（西から）



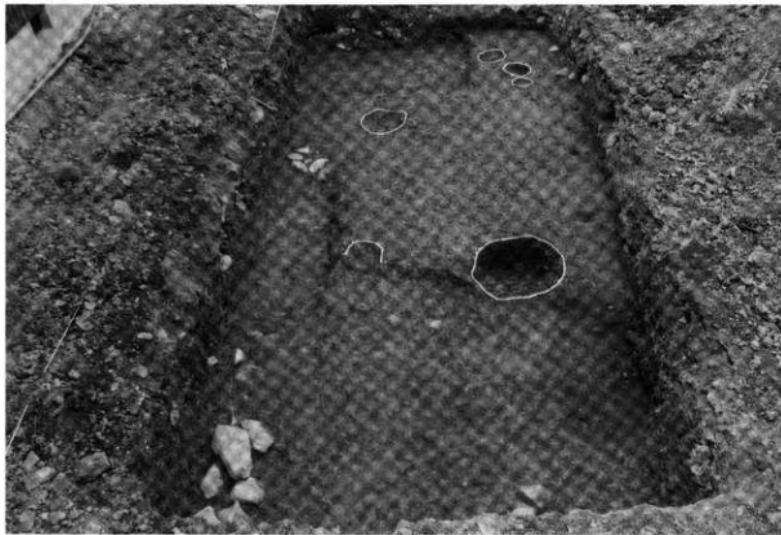
(1) 第1トレンチ全景(南から)



(2) 第1トレンチ全景(北から)



(1) 第2トレンチ(南から)



(2) 第2トレンチ全景(北から)

報告書抄録

ふりがな	いけだしまいぞうぶんかざいはくつちょうさがいほう						
書名	池田市埋蔵文化財発掘調査概報						
副書名	池田市文化財調査報告第21集						
巻次							
シリーズ名	池田市文化財調査報告						
シリーズ番号	22						
編著者名	中西正和						
編集機関	池田市教育委員会						
所在地	■563 大阪府池田市城南1丁目1番1号 ■0727-52-1111						
発行年月日	1996年3月31日						
ふりがな	ふりがな	コード	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号	° °			
いけだじょう 池田城	いけだじたいし・しろやまちょう 池田市建石・城山町	272043	—	34度 49分 20秒	135度 26分 00秒	950707 950718	災害復旧に伴う 個人住宅建て替えの事前調査
いけだじょう 池田城	いけだじたいし・しろやまちょう 池田市建石・城山町	〃	—	34度 49分 20秒	135度 26分 00秒	950724 950811	災害復旧に伴う 個人住宅建て替えの事前調査
いけだじょう 池田城	いけだじたいし・しろやまちょう 池田市建石・城山町	〃	—	34度 49分 20秒	135度 26分 00秒	960108 960112	災害復旧に伴う 個人住宅建て替えの事前調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記	事項	
池田城	城館・集落	縄文～中世	柱跡	弥生土器			
池田城	城館・集落	縄文～中世	堀	土師器皿			
池田城	城館・集落	縄文～中世	柱跡	土師器皿			

池田市文化財調査報告第22集
 池田市埋蔵文化財発掘調査概報II
 1995年度
 1996年3月
 発行 池田市教育委員会
 池田市城南1丁目1番1号
 編集 社会教育課 文化財係
 印刷 西村印刷株式会社